

## 2020年度後期授業評価のまとめ

今年度後期の授業評価アンケート調査の結果概要を以下にまとめる。ほとんどの基幹教員、講師から回答が得られたが、対面授業でアンケートにその場で回答させていた時よりも回収率は下がっている。概要を以下に記す。

	登録学生数 (研究生含)	回答者		授業満足度					授業目的達成度				
		数	%	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
研究科共通	52	28	54%	0	0	3	17	8	0	0	2	17	9
専攻科目	160	133	83%	3	2	9	58	74	2	3	4	59	69
<b>合計</b>	<b>212</b>	<b>161</b>	<b>76%</b>	<b>3</b>	<b>2</b>	<b>12</b>	<b>75</b>	<b>82</b>	<b>2</b>	<b>3</b>	<b>6</b>	<b>76</b>	<b>78</b>

※ 授業満足度、授業目的達成度ともに5が最も高く、1が最も低い。

### 【総評】

- 満足度・達成度ともに、昨年度とほぼ変わらず、平均して高い評価を受けている。
- オンライン、ハイブリッド授業の導入に伴い、授業への集中を維持することが困難、参加型の授業運営のための工夫が必要といった意見が学生、教員双方から聞かれた。同時に、マイクやスピーカー、ネット環境など、個々の教員や学生の努力では補いきれない設備面での要望も多かった。
- 学生からの要望・意見として、議論・ディベート・事例研究・ロールプレイ・模擬裁判等、参加型の授業形態を望む声が多い。
- 教員から、オンラインの様々なツールを使って学生の参加や理解を高める努力が報告された。オンライン授業は、学生の主体的参加を醸成することが難しい一方で、ツールは様々な存在している。教員側の努力やツールの知識が、学生の満足度に如実に反映されているようだった。
- 授業中の議論に参加しない学生や、予習をしてこない学生等、学習態度が受け身な学生がいるという指摘は、従来通り聞かれた。